

亀井農林水産大臣が動物衛生研究所を視察される

平成 15 年 4 月 19 日（土）の午後、亀井農林水産大臣が動物衛生研究所を訪問された。この度の大臣の農林研究団地訪問先は、当研究所のほか、つくばリサーチギャラリー、（独）農業生物資源研究所及び（独）食品総合研究所で、大臣には、政務秘書官、秘書官、大臣補佐官並びに次席秘書官の随行者が、また農林水産技術会議事務局の石原事務局長、永田局長補佐官（技術情報室長）並びに金森筑波事務所長の先導者が一緒された。これに対して、当研究所は、寺門理事、清水所長、齋藤総務部長、品川プリオン病研究センター長、播谷感染病理研究室長、横山病原・感染研究チーム長、山中研究交流科長、壽情報資料課長、村上研究企画科長が対応した。

大会議室において、寺門理事の歓迎挨拶に続き、清水所長から動物衛生高度研究施設の模型を用いて当研究所におけるプリオン病研究センターの設置とプリオン病研究への取り組みを概説した。その後、品川センター長から、スライドを用いて、蛋白質の感染性因子であるプリオンとプリオン病に関わる謎や、BSE 等プリオン病の診断における問題点を概説、さらに、以上の諸問題の解決のために平成 15 年度から開始している農林水産省委託プロジェクト研究「牛海綿状脳症（BSE）及び人獣共通感染症の制圧のための技術開発」における BSE 等プリオン病の研究目標を説明した。さらに播谷室長から脳材料



を用いて実際の BSE の病変・病理を概説した（表紙写真）。

大臣からは、短時間の訪問にもかかわらず、多くのご質問と激励の言葉をいただいた。国際機関との連携を深めつつ、BSE 等プリオン病をはじめとする多種類の人獣共通感染症や有害物質に関わる危機管理及びリスク分析に必要な研究の強化等、農林水産省が定めた「食の安全・安心のための政策大綱」に沿い、農・畜産物の安全性に関わる直接の技術開発を展開している当研究所にとって、その理解をさらに深めていただく絶好の機会となった。

当日、大臣訪問への対応にご協力いただいた所内関係者の皆さまに感謝申し上げます。

（研究企画科長）

お 詫 び

前号（11 号）22 頁に一部誤りがありました。お詫びして下線のとおり訂正いたします。

参 考 平成 14 年病性鑑定内訳

対象疾病等	目的・検査方法等	結 果	本所	海外病部	北海道	七戸	九州	合計
豚・イノシシ								
豚 Salmonella	血清型別及び生物型別	S. Choleraesuis 生物型 Kunzendorf	6					6
死亡豚の原因検索	細菌学的検査及び血清型別	Actinobacillus pleuropneumoniae 血清型 1 型 A. pleuropneumoniae 血清型 2 型 Pasteurella multocida 荚膜型 A Streptococcus suis S. bovis Streptococcus sp. Mycoplasma hyorhinis M. hyopneumoniae					7 6 3 5 3 5 6 4	7 6 3 5 3 5 6 4